

AI等の最新技術の活用

- 01
- AIをはじめとした技術は急速に進歩しており、今後も技術革新が次々と起こることが期待されています。
 - 最新技術を次々と取り入れることこそがこれからの地域課題解決の鍵であり、積極的な活用が必要です。

激甚化する災害への備え

- 02
- 近年、気候変動に伴い、9割を超える市区町村で10年間に1回以上の水害が発生しています。
 - 防災に向けた基盤整備、自助・共助・公助の災害対策、災害時に迅速適切に対応出来る体制構築を着実に実施する必要があります。

子どもや若者、子育て当事者の視点の重視

- 03
- 全ての子ども・若者が、身体的・精神的・社会的に幸せな状態で生活を送ることができる社会の実現が必要とされています。
 - 子どもや若者、子育て当事者の目線に立ち、子どもや若者にとっての一番の利益を考え、個々の状況に応じたきめ細かな支援が期待されています。

多様性のある社会の実現

- 04
- 人々のライフスタイルや家庭、結婚、就労等に対する価値観は多様化しています。
 - 価値観や文化の違いをお互いが認め合い、だれもが共生できる社会づくりが必要です。

文化・スポーツによるまちづくり

- 05
- 新型コロナウイルス感染症の拡大によって、文化・スポーツが地域社会や人々の幸福に大きな役割を担っていることが再認識されています。
 - する人、観る人、支える人に着目し、それぞれが文化やスポーツに親しめる環境づくりが必要です。

新しい健康社会の実現

- 06
- 高齢化の進展に伴い、治療だけでなく日常生活の行動変容を通じた健康づくりの重要性は増加しています。
 - デジタルを活用するなど、未来の健康づくり推進が必要です。

地域経済における経済循環の重視

- 07
- 人口減少により経済全体が縮小する恐れがある中、生産性の向上や新産業の育成等が重要です。
 - 地域内経済の循環構造に着目し、地域経済活性化に向けた施策展開が必要です。

人中心の社会への転換

- 08
- 人口減少社会においては、一人ひとりの豊かさや幸福度に着目することが重要です。
 - 需要が供給に合わせる経済から、供給が需要に合わせる経済への転換などといった、発想の転換が必要です。

コンパクトなまちづくり

- 09
- 人口減少下で地域の活力を維持するためには、都市機能の誘導によるまち全体の利便性の向上が必要です。
 - 都市機能の誘導にあわせて、集約した各拠点を結ぶコンパクトプラスネットワークのまちづくりが必要です。

脱炭素社会の実現

- 10
- パリ協定に基づき世界各国が地球温暖化対策に取り組んでおり、我が国においても、2050年までの温室効果ガス実質ゼロを目指しています。
 - 今後、行政だけでなく市民や経済界も一緒になって、このカーボンニュートラル実現に向けた取組を加速する必要があります。

第1章 序論 | みなさんの声 (市民アンケート)

いまと未来の佐賀市のイメージ

概要

目的

- 佐賀市民のWell-Beingについて調査するとともに、いまと未来の佐賀市に対する市民の意見を定量的に聴取する。

実施概要

| | |
|-------|----------------------------|
| 調査地域 | 佐賀市全域 |
| 調査対象 | 市内に居住する18歳以上 |
| 対象者数 | 2,000人 |
| 有効回収数 | 559サンプル (回収率 27.95%) |
| 抽出方法 | 旧市町村ごとに住民基本台帳から年齢階層別に無作為抽出 |
| 調査方法 | 郵送による配布、郵送による回収 |
| 調査期間 | 令和5年10月18日～11月12日 |

結果 (自由記述)

佐賀市の魅力や市外の人に自慢できること

- 自然の豊かさに関する記載が多く、バルーンのまちを推す声も多い。



将来の佐賀市が、こんなまちになって欲しいと思うこと

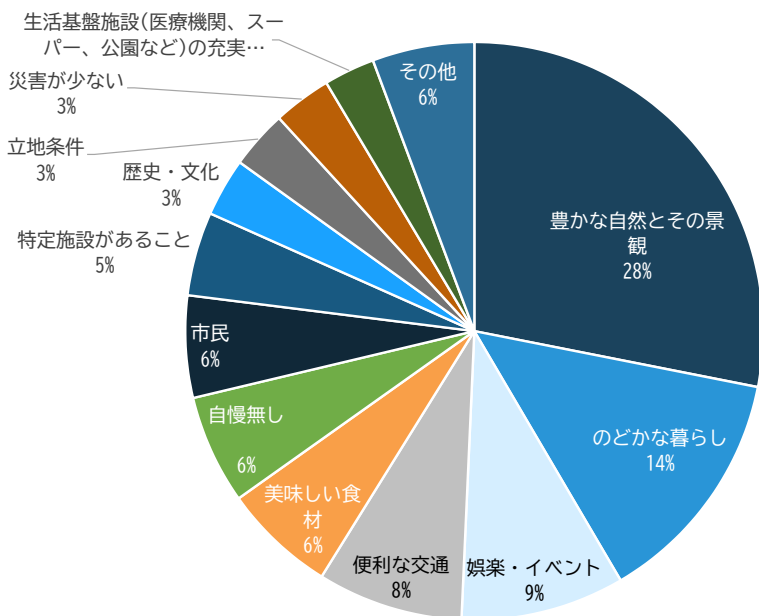
- 「人」「子ども」といった、人中心の将来が意見として多い。



※自由記述の意見に関するテキストマイニング³

第1章 序論 | みなさんの声 (市民アンケート)

佐賀市の魅力や市外の人に自慢できること (自由記述)



主な意見

豊かな自然とその景観

- 自然が豊かで、のびのび暮らすことができる。
- 自然の原風景が残っている。空が広く、大きく見える。

のどかな暮らし

- 市街地と自然がうまく調和していて、住みやすい。空気がきれい。
- 田舎で住みやすい、あえてその部分を特化しても良い。

娯楽・イベント

- バルーンフェスタは自慢できます。
- 近年ではアリーナや佐賀駅等利用しやすく、魅力的な街に生まれ変わっていると思います。

便利な交通

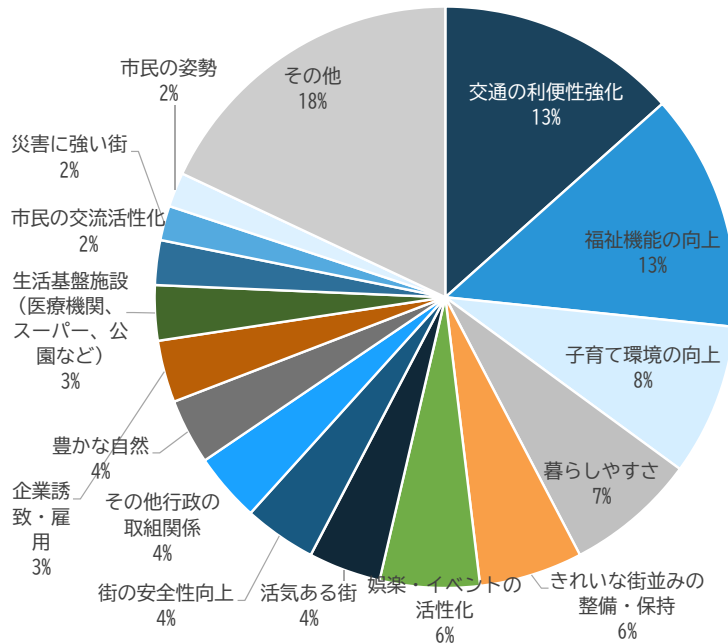
- 空港が近く、身近な存在。佐賀駅を中心に活性化と整備が進んでいる。公園が充実している。

美味しい食材

- 食事がおいしいところです。食材はもちろん何を食べてもおいしいです。

第1章 序論 | みなさんの声 (市民アンケート)

将来(2040年頃)の佐賀市がこんなまちになって欲しいと思うこと (自由記述)



主な意見

交通の利便性強化

- 運転免許を返納後、自由に移動可能な交通機関の充実
- 公共交通機関が整い、移動にお金がかからないですむ様なまちにしてほしい。

福祉機能の向上

- 医療・福祉サービスが充実していて、安心して暮らせるまち。
- 子どもにも老人にも支援や介護が受けやすくなるようにしてもらいたい。

子育て環境の向上

- このまちで子育てしたいと思えるまちになってほしい。
- 子どもがのびのびと暮らせる佐賀市になるようにしてほしい。公園など、安全に遊べる場所がほしい。

暮らしやすさ

- 誰もが(どんな世代も)住みやすい地域。誰もが(どんな世代も)生活しやすい地域。
- 都会の若者が、「ゆとりのある暮らしの中で仕事ができるまち」として、あこがれてくれる様な佐賀市

第1章 序論 | みなさんの声 (高校生ワークショップ・市長と意見交換)

計画策定にこれからの未来を担う高校生が参画

概要

目的

- これからの未来を担う市内高校生が考える、いまの佐賀市の魅力や未来の佐賀市のイメージについて、市長と意見交換を行い、聴取する。

開催概要

| | ワークショップ | ワークショップ | 市長と意見交換 |
|------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 開催日 | 令和5年 10月17日(火) | 令和5年 11月17日(金) | 令和5年 11月28日(火) |
| 開催時間 | 14時00分 ～16時00分 | 17時00分 ～18時30分 | 14時00分 ～15時20分 |
| 開催場所 | 佐賀市役所 | 佐賀市役所 | 致遠館高等学校 |

参加者

市内高校生 8名
(龍谷高等学校 4名、致遠館高等学校 4名)

内容

- 佐賀市の魅力・未来の佐賀市のイメージについて個々に考え、話し合い、意見を発表する。
- 2回のワークショップを経て、最後に市長と直接意見交換を行う。

結果

いまの佐賀市の魅力は？

| | |
|--------|-------------------------------------|
| ひとの魅力 | 地域の人々が優しくかかわってくる みんな明るい |
| まちの魅力 | 心がおちつくような環境 定期的なイベント開催 (アリーナ、駅前) |
| 食べ物の魅力 | 野菜をたくさんゆずってもらえる |
| 自然の魅力 | 自然体験が多くできる |

未来の佐賀市のイメージは？

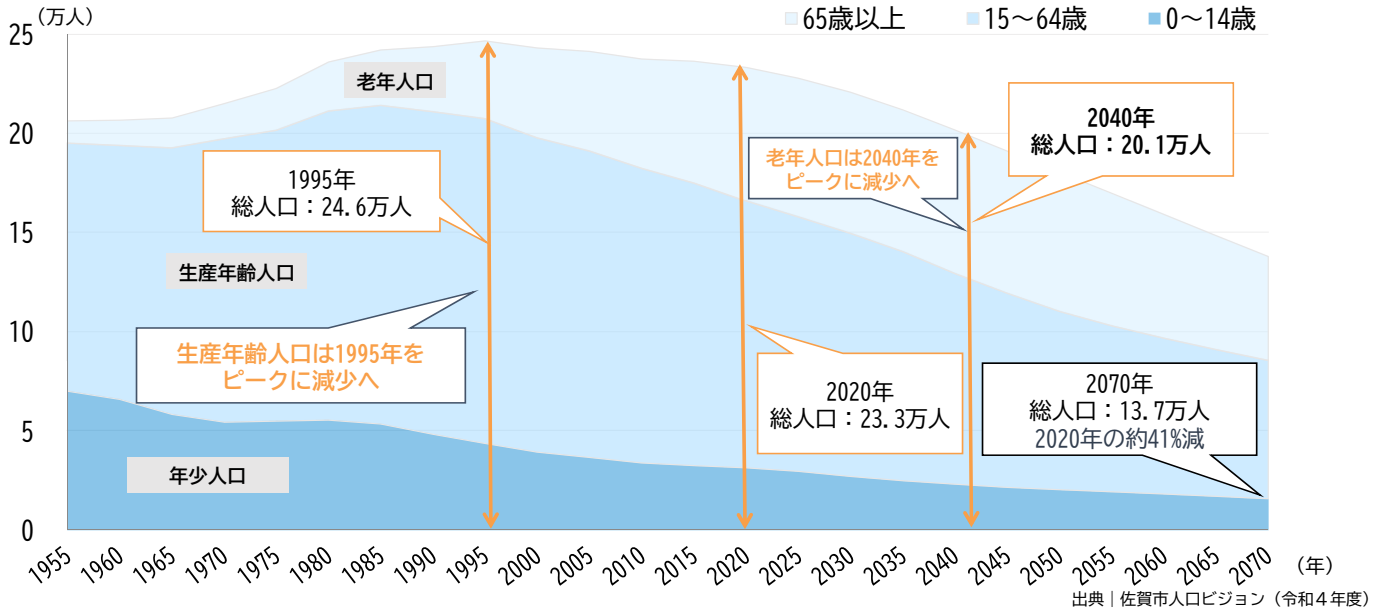
「笑顔あふれる！未来の佐賀市」

| | |
|--------|-------------------------------------|
| 教育 | 男女の固定観念にとらわれない 子どもを安心して育てることができる |
| まちの多様性 | 都市と田舎の特徴を合わせたまち いろいろな仕事スタイルがある |
| 技術 | 交通の利便性など今よりも強化 AIやリモートの十分な活用 |
| 交流 | 地域と住民のコミュニティの関係を深める |

第2章 人口ビジョン | 人口構造の変化と推移 (将来推計人口)

ポイント

- 総人口は2040年に20.1万人と、2020年（23.3万人）比で14%減になると推計
- 年齢区分別では老年人口は増加を続けているものの、2040年にはピークを迎え減少へ転じる。



第2章 人口ビジョン | 将来の人口構造等の展望 (人口ピラミッド)

ポイント

- 2040年には団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者となる。
- 人口の総量が減ると同時に人口構造が変化し、生産年齢人口約2人で1人の老年人口を支える構造(2020年)から、約1.46人で1人を支える構造となると推計

